



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月6日

上場会社名 株式会社 ビーマップ
 コード番号 4316 URL <http://www.bemap.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 杉野 文則

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 大谷 英也

TEL 03-5297-2181

四半期報告書提出予定日 2020年2月7日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	904	17.0	34		46		35	
2019年3月期第3四半期	772	10.1	66		65		68	

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 35百万円 (%) 2019年3月期第3四半期 67百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	10.90	10.80
2019年3月期第3四半期	21.18	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	896	778	78.8
2019年3月期	1,032	733	65.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 707百万円 2019年3月期 670百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,500	1.3	90	1.1	90	8.4	65	3.2	20.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	3,227,000 株	2019年3月期	3,225,900 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	1,013 株	2019年3月期	972 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	3,226,651 株	2019年3月期3Q	3,224,692 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績等の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（以下、当第3四半期）におけるわが国経済は、企業収益の改善や雇用環境の改善が見られ、緩やかな回復の兆しを見せたものの、国内で相次いで発生した自然災害の影響、また米中貿易摩擦や金融市場の動向、少子高齢化による労働人口減少、地政学上のリスクなど景気の先行きは不透明な状況にあります。

当社グループの主な事業領域であるIT関連業界におきましては、IT需要は堅調に推移しましたが、人手不足はいっそう深刻化するとともに受注獲得競争の激化の懸念が生じております。また、インバウンド需要につきましては、訪日外国人の消費行動の変化に対応した取り組みが必要な状況となっております。

当第3四半期におきましては、第3四半期会計期間のみを対象とすると、ナビゲーション事業分野、ワイヤレス・イノベーション事業分野、ソリューション事業分野いずれも売上高は前年同期を上回り、セグメント利益も増加（改善）いたしました。売上総利益は回復いたしました。人員増に伴い販売費及び一般管理費が増加したことにより、営業損失が前期より増加いたしました。

当社グループの当第3四半期の業績は、売上高904,136千円（前年同期比17.0%増）、営業利益34,390千円（前年同期は営業損失66,315千円）、経常利益46,144千円（前年同期は経常損失65,267千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益35,158千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失68,299千円）となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

また、各事業分野のセグメント利益又は損失（営業利益又は損失、以下同）は、全社費用75,025千円を含まない額であります。

① ナビゲーション事業分野

ナビゲーション事業分野においては、鉄道など社会インフラ提供事業者向けのシステム開発・サービス提供を行っております。

当事業分野においては、従来より株式会社ジェイアール東日本企画向けに時刻表や経路探索技術の提供などを行っており、これに加えて、交通系ICカードに関わる交通費精算クラウドサービス「transit manager」をリリースし、当事業分野における第二の柱に成長させるべく注力しております。当第3四半期においては、私鉄向けアプリ開発などが順調に推移し利益率が改善いたしました。

この結果、当事業分野の売上高は165,809千円（前年同期比24.0%増）、セグメント利益は50,898千円（前年同期比56.8%増）となりました。

② ワイヤレス・イノベーション事業分野

ワイヤレス・イノベーション事業分野においては、無線LAN等の社会インフラ間のハブとなるシステム開発・サービス提供を行っております。

無線LANの各種システム・サービスについては、エヌ・ティ・ティ・ブロードバンドプラットフォーム株式会社（NTTB P）との協力により、通信・鉄道・流通や自治体をはじめとする無線LANスポット提供事業者に対して事業展開を進めております。保守運用案件については予定通り進捗し、中小規模案件については堅調に推移しました。当社独自の新品・サービスであるAir Compass Media（車載サーバ）やIgniteNet製品及びクラウド管理システムの販売については、継続して注力しております。当期間中は大型構築案件による上積みができず苦戦はしましたが、当第3四半期末までの累計では売上高・セグメント利益とも前年同期を上回りました。

この結果、当事業分野の売上高は571,103千円（前年同期比16.3%増）、セグメント利益は69,733千円（前年同期比98.1%増）となりました。

③ ソリューション事業分野

ソリューション事業分野においては、上記以外の映像配信システム事業、TVメタデータのASP事業、コンテンツブリント事業、O2O20事業・MMS事業等を行っております。

その中でもO2O20事業・MMS事業等の新規事業を当事業分野の主要な柱とすべく重点的に取り組んでおります。当第3四半期においては、持分法適用会社である株式会社MMSマーケティングが昨年11月以降取り組んでいる流通系金融会社向けのプロモーション業務への支援を中心に売上、セグメント利益とも改善しております。当事業分野にお

いては、採算の低い案件も含まれている一方、将来に向けた投資として取り組んでいるものも含まれており、慎重に取捨選択のうえ利益率の改善に取り組んでおります。

この結果、当事業分野の売上高は167,223千円（前年同期比13.0%増）、セグメント損失は11,216千円（前年同期61,593千円の損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産総額は前連結会計年度末比135,452千円減少の896,684千円となりました。また負債総額は前連結会計年度末比181,118千円減少の117,799千円、純資産は前連結会計年度末比45,666千円増加の778,885千円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年5月10日の前期決算発表時点から変更ありません。なお、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

当第3四半期において、全事業分野とも売上高が前年同期を上回り、売上総利益、営業利益が前期より改善いたしました。当初想定していた第3四半期の苦戦を最小限に抑えることができ、第4四半期においては、ワイヤレス・イノベーション事業での構築案件が続いていること、ソリューション事業はMMS事業を中心に利益率の改善が進んでいること、ナビゲーション事業は計画通りの進捗にめどが立っていることなどから、3期連続で黒字計上する見通しです。今後、人員の成長分野へのシフトとともに固定費の削減に努めることで、通期での業績予想達成を目指します。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	296,773	489,526
売掛金	588,415	196,638
仕掛品	5,902	35,259
原材料	4,895	2,585
その他	16,639	31,840
流動資産合計	912,626	755,850
固定資産		
有形固定資産	19,527	33,134
無形固定資産	8,097	6,515
投資その他の資産	91,885	101,183
固定資産合計	119,511	140,834
資産合計	1,032,137	896,684
負債の部		
流動負債		
買掛金	148,038	25,329
未払金	63,758	41,864
未払法人税等	22,575	891
役員賞与引当金	7,400	-
その他	42,836	21,226
流動負債合計	284,607	89,311
固定負債		
資産除去債務	12,763	23,787
繰延税金負債	1,547	4,700
固定負債合計	14,310	28,488
負債合計	298,918	117,799
純資産の部		
株主資本		
資本金	930,028	930,497
資本剰余金	11,951	12,420
利益剰余金	△268,954	△233,796
自己株式	△2,068	△2,119
株主資本合計	670,955	707,001
新株予約権	56,505	65,974
非支配株主持分	5,757	5,909
純資産合計	733,219	778,885
負債純資産合計	1,032,137	896,684

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	772,604	904,136
売上原価	435,490	447,997
売上総利益	337,113	456,138
販売費及び一般管理費	403,428	421,747
営業利益又は営業損失(△)	△66,315	34,390
営業外収益		
持分法による投資利益	224	10,786
受取利息	785	718
雑収入	36	510
営業外収益合計	1,047	12,015
営業外費用		
支払利息	-	261
営業外費用合計	-	261
経常利益又は経常損失(△)	△65,267	46,144
特別利益		
持分変動利益	3,878	-
特別利益合計	3,878	-
特別損失		
投資有価証券評価損	5,305	-
特別損失合計	5,305	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△66,694	46,144
法人税、住民税及び事業税	1,289	7,681
法人税等調整額	△178	3,153
法人税等合計	1,111	10,834
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△67,805	35,310
非支配株主に帰属する四半期純利益	494	151
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△68,299	35,158

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△67,805	35,310
四半期包括利益	△67,805	35,310
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△68,299	35,158
非支配株主に係る四半期包括利益	494	151

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ナビゲーション 事業	ワイヤレス・イ ノベーション事 業	ソリューション 事業	計		
売上高	133,684	490,963	147,956	772,604	—	772,604
セグメント利益 又は損失 (△)	32,463	35,193	△61,593	6,064	△72,379	△66,315

(注) 1 セグメント利益又は損失 (△) の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失 (△) は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ナビゲーション 事業	ワイヤレス・イ ノベーション事 業	ソリューション 事業	計		
売上高	165,809	571,103	167,223	904,136	—	904,136
セグメント利益 又は損失 (△)	50,898	69,733	△11,216	109,415	△75,025	34,390

(注) 1 セグメント利益又は損失 (△) の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失 (△) は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。